

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	長野液酸工業株式会社					
代表者名	氏名	野口行敏	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県松本市神田一丁目14番1号					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	16 化学工業				
主たる事業の概要	液化酸素・液化窒素・液化アルゴン・ガス窒素の製造					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	9802	9704	9795	9800	9841
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	20322	20139	20324	20321	20405
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	0		0	0	0
自動車の台数	台	0		0	0	0
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	0				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	平成 28 年度	計画期間	平成 29 年度～ 平成 31 年度
報告対象年度	平成 31 年度		

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	書面で窓口にて公表（AM9：00～PM5：00） 連絡先TEL0263-26-3567
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

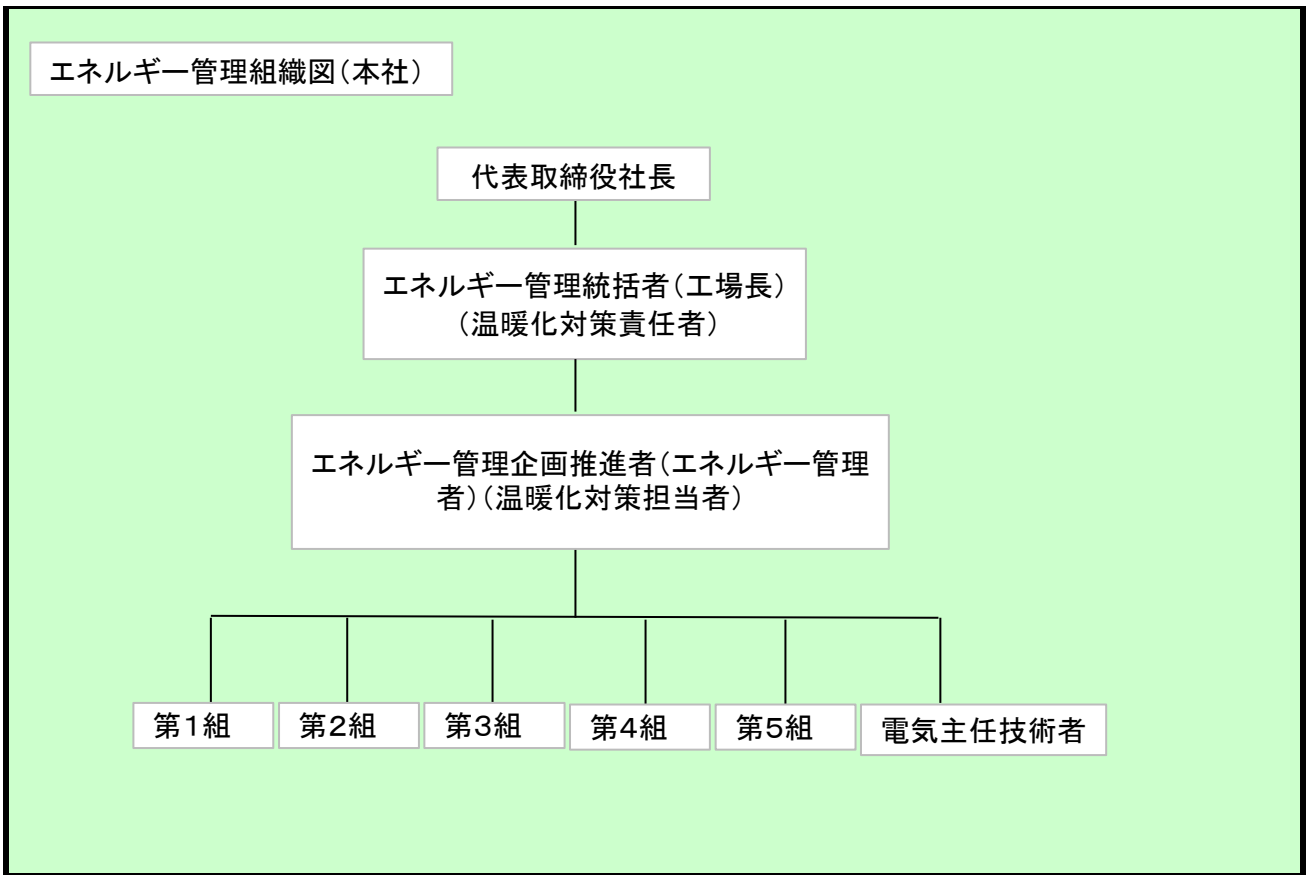
様式1号
(総括票)

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

当社は第1種エネルギー管理指定工場として以下の趣旨で温室効果ガスの排出の抑制をする。

1. 空気液化分離装置の有効的な運転に努める。
2. 各装置とも年1回の定期分解整備を実施する。
3. 電気受電設備及び使用電気設備の年1回の定期点検を実施する。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

温暖化対策省エネ提案会議 (年2回)

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	20,322	t-CO ₂	生産数量	614.20	単位	百 t	
28 年度	調整後排出量	20,165	t-CO ₂	基準原単位	33.09	t-CO ₂ /	百 t	
目標年度	目標排出量	20,139	t-CO ₂	目標原単位	32.82	t-CO ₂ /	百 t	寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
31 年度	目標削減率	0.90	%	目標削減率	0.81	%		
目標設定に関する説明	当社は電気エネルギーの99%を空気液化分離装置で消費している。その内の殆どがモーターの電力であるため、プラント設備全体の更新などがなければ大幅な省エネは望めないが、現プラント性能低下の防止と、より安定的、効率的な運転、他設備の改善などによって温室効果ガスの排出を抑制する。							※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	20,324	t-CO ₂	生産数量	592.30	単位	百 t	
	調整後排出量	20,128	t-CO ₂	原単位	34.31	t-CO ₂ /	百 t	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
29 年度	削減率	(0.01)	%	削減率	(3.69)	%		
排出量等の増減理由	冷却水の水質が悪くなってしまったため空気液化分離装置の熱交換器の冷却水側に詰りが生じてしまった。このことにより気候が温かくなるにつれて減量運転を余儀なくされ、生産量が落ちてしまった。プラントを停止して、自社でできる熱交換器は清掃したが、すべては清掃できず、原単位が悪化してしまった。							
第二年度	排出量	20,321	t-CO ₂	生産数量	611.80	単位	百 t	
	調整後排出量	20,164	t-CO ₂	原単位	33.22	t-CO ₂ /	百 t	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
30 年度	削減率	0.00	%	削減率	(0.40)	%		
排出量等の増減理由	昨年度起きた熱交換器の詰りにより余儀なくされた減量運転を改善するため、抑制剤変更による冷却水水質の改善を行った。昨年よりは生産数量は増えたものの、投入時期が今年度の前半期であったため、基準年と比べると若干生産数量が少なくなり、原単位の削減とまではいかなかった。							
第三年度	排出量	20,405	t-CO ₂	生産数量	618.00	単位	百 t	
	調整後排出量	20,208	t-CO ₂	原単位	33.02	t-CO ₂ /	百 t	寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
31 年度	削減率	(0.41)	%	削減率	0.21	%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由	冷却水の水質が良くなったために一年を通して熱交換器の詰りによる効率の低下が起きず、安定して運転ができた。そのために液生産量が増え原単位はわずかに改善できたが目標値まではいかなかった。排出量の削減についても、電気使用量を減らせるような効果的な改善ができなかったため目標値まではいかなかった。							

様式1号
(総括票)

6の2エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /		
目標年度	目標排出量	0	t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた目標削減率 [※]
年度	目標削減率		%	目標削減率		%		
目標設定に関する説明								※事業の内容により単一の原単位を設定できない者のみ記載する(以下同じ)。
第一年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第二年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
排出量等の増減理由								
第三年度	排出量	0	t-CO ₂			単位		
年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /		寄与度の合計から求めた実績削減率 [※]
年度	削減率		%	削減率		%		
目標の達成状況及び排出量の増減理由								

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量		t-CO ₂			
年度						
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標設定に関する説明						
第一年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第二年度	排出量		t-CO ₂	削減率		%
年度						
排出量等の増減理由						
第三年度	排出量	0	t-CO ₂	削減率		%
年度						
目標の達成状況及び排出量の増減理由						

7 重点対策の実施状況

段階	連番	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I、II	1	燃料使用量等の定期的な把握						
	2	エコドライブの励行						
III、IV	—	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	対策内容	計画		状況	
			実施 予定年 度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	330205 冷却水水質基準の設定、水質改善	29	100	30	300
2	エネ起	360705 コンプレッサー中間冷却器の清掃	29		30	300
3	エネ起	380701 過剰照度の是正のためのランプ間引き	29	2	29	8
4	エネ起	360799 水ポンプ高効率モーターへの更新	30	5	31	0
5	エネ起	380752 LEDの導入	30	7	31	6
6						
7						
8						
9						
10						

9 自然エネルギー源利用設備等の導入状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光発電 (10.40)	KW	10.4	0	10.4	10.4	10.4

10 クレジット等に関する取組状況

クレジットの種類	単位	基準年度	計画期間	第一年度	第二年度	第三年度
グリーンエネルギー証書 (電気)	tCO ₂					
グリーンエネルギー証書 (熱)	tCO ₂					
J-クレジット制度により 創出されたクレジット	tCO ₂					
県が認証したクレジット	tCO ₂					
電気の利用に伴うもの	tCO ₂	157		196	157	197
低炭素電力の利用	tCO ₂					

様式1号
(総括票)

1.1 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	1	20,322	1	20,324	1	20,321	1	20,405
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満								
合計	1	20,322	1	20,324	1	20,321	1	20,405

1.2 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
NF ₃	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

1.3 次世代車使用台数、導入計画及び実績 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	0	0	0	0
電気自動車	0	0	0	0
燃料電池自動車	0	0	0	0
クリーンディーゼル自動車	0	0	0	0
その他 (ハイブリッド等)	0	0	0	0
合計	0	0	0	0
自動車総数	0	0	0	0
次世代車導入割合				

様式1号
(総括票)

1.4 中小企業支援状況

区分	内容
中小企業への省エネ診断	特になし
その他	特になし

1.5 交通対策状況

区分	実施内容
ノーマイカー通勤	近距離通勤者に徒歩通勤を推奨
公共交通機関の利用促進	出張は原則公共交通機関利用を指定。31年度の同利用率は100%を達成
来客者の交通対策	該当せず
物流の合理化	該当せず

1.6 環境マネジメントシステム導入状況

番号	名称	導入年
1		
2		
3		

1.7 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度実績	社内敷地内に広葉樹を植樹し、緑化保全に努めた
第一年度実績	冷却塔の効率を上げるための清掃、ごみ取り網の改善をした。事務所の暖房設備を灯油からガスヒーターに交換した。
第二年度実績	社内敷地内に広葉樹を植樹し、緑化保全に努めた
第三年度実績	事務所南側に直射日光を遮るため、ゴーヤを植え緑のカーテンをつくった。

1.8 自由記載欄

区分	内容	削減量 (tCO ₂)
基準年度以前の取組み	冷却塔充填材、散水孔の整備、洗浄。冷却塔ファン羽根の角度調整による冷却能力アップ。No.2 WP インペラー老朽化性能低下により更新	27
その他		